

Sponsor's Seminar

● 産総研セミナー：公的研究機関における創薬への取り組み

日時：2014年10月15日、13:00～14:30 場所：Annex hall F205/206

2013年度より、産総研では創薬を加速する技術開発に特化したプログラム「革新的創薬推進エンジン開発プログラム (LEAD)」を実施しています。スポンサーセミナーでは、4つのサブテーマのうち、医薬候補分子の最適化技術、糖タンパク質マーカーによる診断技術の2題について発表致します。また、産総研は医薬基盤研、理研とともに創薬支援ネットワークを推進しています。セミナーの後半では、両研究所から演者を招き、創薬支援に関する取り組みについて紹介して頂きます。

「分子プロファイリングから展開する創薬支援」

"Drug discovery and development by molecular profiling"

産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター 研究センター長 夏目 徹

Toru NATSUME, Director, Molecular Profiling Research Center for Drug Discovery, AIST

当センターは、産総研内に構築された世界屈指の研究リソース・計測・ロボット・数理解析技術・データベース構築技術を発展・融合し、化合物プロファイリングに特化して取り組んでいます。これら高度プロファイリング技術により、産業界とアカデミアとを有機的に橋渡しし、創薬産業を短期的に活性化させます。さらに、産学官「一体型」創薬の実現と創薬開発プロセスの効率化・高度化により、生命科学における新パラダイム創出を目指します。

「糖タンパク質マーカーによる疾患検出・診断技術」

"Glyco-diagnostics: A reliable way for disease detection and diagnosis assisted by glycoprotein markers"

産業技術総合研究所 糖鎖創薬技術研究センター 標的糖鎖探索チーム 上級主任研究員 久野 敦

Atsushi KUNO, Chief Senior Researcher, Glycomedicine Technology Research Center, AIST

細胞の表面は糖鎖に覆われており、その構造は細胞の状態や周辺環境に呼応して変化します。この糖鎖の変化を効率よく捉えることができるようになると、細胞がどのように変化したかを知ることにつながるだけでなく、疾患に伴う細胞の状態（形態学的）変化を糖鎖構造変化で説明するという医学的な応用面も考えられます。それを達成するべく、わたしたちは組織標本上の細胞10～100個レベルからなる局所領域を対象にした糖鎖解析技術を開発しています。本シンポジウムでは技術コンセプトを紹介し、その疾患バイオマーカー開発への応用について触れたいと思います。

「動き始めた創薬支援ネットワーク～創薬立国の実現に向けて～」

"Current status and future strategy of Drug Discovery Support Network"

医薬基盤研究所 理事/創薬支援戦略室長 榎林 陽一

Yoichi KUREBAYASHI, Vice President/Head of Center for Innovative Drug Discovery and Development (iD3), National Institute of Biomedical Innovation

平成25年5月、厚労省、文科省、経産省の支援のもと、医薬基盤研究所、理化学研究所、産業技術総合研究所が連携して取り組む「創薬支援ネットワーク」が始動しました。平成26年度は、「医薬品創出の基盤強化」政府目標実現に向けて、3機関が連携してネットワークの本格稼働に対応し、有望シーズ発掘からHTS、最適化研究、非臨床試験までアカデミア発創薬の支援に機動的に取り組めます。今回は、創薬支援ネットワークの課題と将来構想について詳述します。

「理研 DMP が果たす役割～創薬支援ネットワークプロジェクトの成功にむけて～」

"Possible contribution of RIKEN DMP - For successful management of Drug Discovery Support"

理化学研究所 創薬・医療技術基盤プログラム プログラムディレクター 後藤 俊男

Toshio GOTO, Program Director, RIKEN Program for Drug Discovery and Medical Technology Platforms (DMP)

理研は創薬支援ネットワーク (DDSN) 開始に3年先立つ2010年4月に「創薬・医療技術基盤プログラム (DMP)」を設立しました。プログラムは、理研の広範なライフサイエンス基盤技術を強いイノベーション志向のもとに統合したマトリクス組織であり、戦略的チーム編成によって理研内外に由来するテーマを推進してきました。DDSNの設立に伴い、理研はDMPの経験に基づきその運営をサポートすると共に、実務機関としてDDSNプロジェクトの成功に資するべく、HTS、medicinal chemistry、計算科学、分子イメージング等の創薬技術基盤ユニットをフル稼働させることが可能です。